

特別成果加算(無罪等)請求書 <刑事・少年共通> (書式4-A① 2021.1月版)

弁護士 _____ (登録番号 _____) 提出日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

事件番号: _____ 年(_____)第 _____ 号 被疑者・被告人・少年 氏名: _____

下記の事由がありましたので、特別成果加算(無罪等)報酬を請求します。

※該当する口にチェック。

<刑事事件>

※判決書きや弁論要旨の写しなど、公訴事実又は刑の減免事由の不存在を争ったことを疎明する資料を添付。

全部無罪	<input type="checkbox"/> 公訴事実を争った <input type="checkbox"/> 判決主文において公訴事実の全部について無罪が言い渡された。
一部無罪	<input type="checkbox"/> 公訴事実を争った <input type="checkbox"/> 判決主文において公訴事実の一部について無罪が言い渡された。 ※公訴事実中、無罪となった部分を記載。
縮小認定等	<input type="checkbox"/> 下記①～③について公訴事実(刑の減免事由)を争った。 (争った時期や内容等、詳細を以下に記載) 詳細 [_____]
	<input type="checkbox"/> ①起訴状記載の公訴事実(刑の減免事由)は法定刑に死刑の定めのある罪に係るものであったが、判決に示された罪となるべき事実は、法定刑に死刑の定めのない罪に係るものであった。
	<input type="checkbox"/> ②起訴状記載の公訴事実(刑の減免事由)は死刑又は無期若しくは短期1年以上の懲役若しくは禁錮にあたる罪に係るものであったが、判決で示された罪となるべき事実はこれらの罪以外の罪に係るものであった。
	<input type="checkbox"/> ③判決理由において刑の減免事由に該当する事実が認められ、かつ刑の免除が言い渡され、又は法令の適用において刑の減軽がされた。 ※「刑の減免事由」とは、法律上の刑の減軽又は免除がなされる事由をいう。 酌量減軽のみがなされた場合は加算対象とはならない。
	※判決理由において認められた刑の減免事由をチェック。 <input type="checkbox"/> 過剰防衛 <input type="checkbox"/> 過剰避難 <input type="checkbox"/> 法律の不知 <input type="checkbox"/> 心神耗弱 <input type="checkbox"/> 自首 <input type="checkbox"/> 従犯 <input type="checkbox"/> 中止未遂 <input type="checkbox"/> 障害未遂 <input type="checkbox"/> その他(_____)

<少年事件> ※意見書を添付。

非行事実なし	<input type="checkbox"/> 非行事実を争った。 <input type="checkbox"/> 送致事実の全部又は一部について、非行事実が認められなかった。 <input type="checkbox"/> 保護処分に付さない旨の決定がなされた。 (注)報酬加算にあたっては、上記3要件全てを満たす必要あり。
	* 一部非行事実なしのときは、非行事実なしとなった罪名を記載。